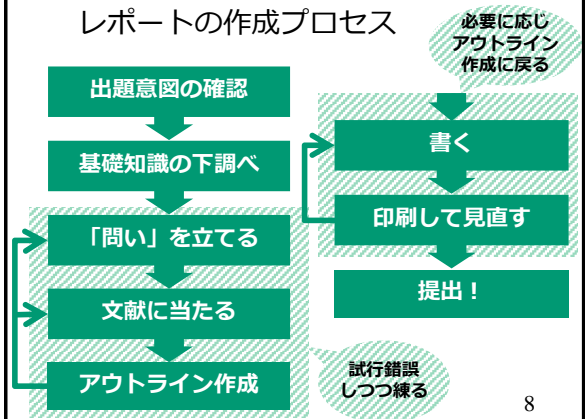


2章「問い」を立てるとは

ここでは「1.大学における学び」で説明したレポートのプロセスに沿って「問い」の立て方を紹介します

7

レポートの作成プロセス



8

出題意図の確認

• レポートで必要な作業は？

報告型：参考文献などを読んで要点をまとめる
論証型：与えられた、又は自分で設定した問いを論証する

基礎知識の下調べ

• テーマについての情報を大まかに探す

インターネットで探す
図書館で探す
書店で探す
友人や教員と話してみる

9

• 図書はまとまった情報を得られるメディア
「～について」書かれた図書を探す

• どこで探す？

大学図書館
公共図書館
書店
インターネット

お金と時間を節約でき、
実際に資料を手にと
ることができる！

図書を探す
→詳しくは4章へ

10

「これは面白い！」をみつける

- 「～について」の情報を集め、探した情報を見たり読んだりしてみると、何かしら引っかかりが出てくるはず
 - ・ なるほどそうだったのか！ (目から鱗)
 - ・ 自分も前からそう思ってた (同意)
 - ・ なぜそういえるのか？ (納得いかない)
 - ・ それは絶対認められない (反発)
- そういう引っかかりに出会えるかどうか「問い」を立てる第1の鍵

「これは面白い！」が見つかったら、さらにそれに関連する資料や情報を集めましょう。集めたものを読んで、情報を整理することでテーマがより明確になります

問いと論点

問い：レポートで明らかにしないといけないこと
論点：問いに答えるために論じるべきポイント、観点、トピック

- 通常与えられるのは問いではなくテーマ
例) 「〇〇について論じなさい」
- そのまま進めるのではなく、問いをたてなおす
- 問いをたてつつ、論点を考える
何が、どういう点が問題なのか？
なぜ論じなければならないか？
(十分に議論がなされていない、社会の中で考える意味があるなど)

12

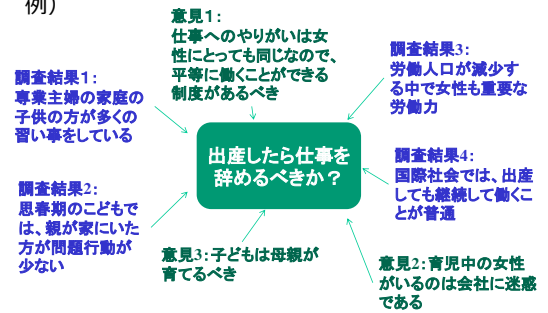
論点を見いだす方法

1. あらゆることをきっかけに考える
個人的体験、授業の内容、人との対話、
ニュース、文献
2. マインドマップ
アイデアを「語」として記載（視覚化）
関係を線でつなぐ（概念の整理）
3. ブレインストーミング
複数人で自由にアイデアを出し合う

13

調べた事実や意見を書き出してみる

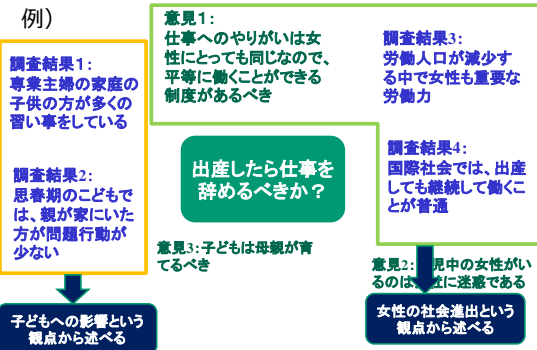
例)



14

整理して問いの種をみつける

例)



文献に当たる

「？」と思うことを見つける情報収集

- 情報を整理するうちに出てくる「？」
 - この「？」に対して、どのような証拠があったら説明できるか
- タイプ1 事実や実態がわかる資料**
タイプ2 理由（なぜか？）がわかる資料

これらの証拠探しが
「問い」を立てるための第2の鍵

16

タイプ1

「事実や実態がわかる資料」を探す

必要な情報が何かを考え、
情報がありそうな場所や作成機関を推測する

例えば、

Q. 地球温暖化について調べたい、世界のCO2排出量や海面水温などの長期動向が見たい

A. 図書館の検索端末に「地球温暖化 統計」と入力してみると『地球温暖化&エネルギー問題総合統計』がヒット日吉の1階レファレンスコーナーにあったので、見てみるとそれぞれの推移表が載っていた

17

タイプ2

「理由（なぜか？）が分かる資料」を探す

- 知りたいことをキーワードにして検索
- ヒットした本を読み、求めている答えがあるか確認

結論を読んでみて、感じる違和感や
同意できない何かは「問い」の種となる

18

「学术论文」を探す

図書を読んだ時の違和感、新たな疑問を解決するために、「学术论文」を探してみましょう

- ヒットした文献の中から、疑問を解くカギになりそうな文献をチェックする
- 要約を読んで、研究の目的、方法、結論を確認

KOSMOSなどのデータベースで
論文・記事を探す
→5章・6章へ

19

「新聞記事」を探す

知識を広げたり新たな情報を得るために「新聞記事」も探しましょう

- 新聞社の多くは無料ウェブサイトでもニュースを配信しているが紙媒体とは内容が異なる
- バックナンバーへのアクセスは通常有料だが、慶應義塾データベースナビからアクセス可能

新聞社のウェブサイトではなく、
契約データベースを使用する
→詳しくは7章へ

20

資料がうまく見つからないときは？

- 資料を探すための検索キーワードを考える
講義内容を復習する、事典や入門書にあたる
- 手に入れた文献の参考文献から、さらに文献を見つける（芋づる式検索）
- テーマや資料を限定しすぎない
資料が手に入るまで分野をひろげて探す
自分の関心をはっきりさせて資料を探し直す
「答え」を導く別のアプローチを考えてみる
量的データだけでなく、質的データを探してみる

21

資料がありすぎて混乱してきたら？

- 検索の拠り所となる判断基準を明確にする
- 判断基準はテーマではなく「情報の使用目的」
- 使用目的が漠然としているときは、
「自分が分かっていること」と「分かっていないこと」
を整理し、レポートを書くにあたって
「知る必要があること」をハッキリさせる

多くの情報に惑わされずに、効率よく必要な情報を
取捨選択できるようになる！

22

まとめ

問いは簡単には決まりません
情報収集し、論点を整理しながら問いを立てましょう
問いと、結論までの論点を導き出せれば、あとは書くだけです



23

実際に情報収集を始める前に

情報の適切・効率的な探索を計画する

- ✓自分が取り組むべき課題を理解し、課題に沿った問いを設定する
- ✓問いを解決するために必要な情報を把握する
- ✓必要な情報と現時点で持っている情報から、新たに収集すべき情報の範囲を定める

24